

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成28年2月29日現在

## 今月の重点活動

### ■飼料用米 連携協定を締結

2月9日、山県市役所において、飼料用米生産流通加速化における連携・協力に関する協定調印式が行われた。平成26年11月に山県市農政連携会議において、市内畜産業の振興に障害となっている家畜糞堆肥の利用停滞が問題提起されてから、1年2か月経過しての調印式となった。市内の飼料用米の生産に無償で家畜糞堆肥が供給され、市内で生産される飼料用米を今後家畜の餌に利用する循環型低コスト農業を進めていくための協定である。

農業普及課は、この協定に先立ち、豚糞堆肥を活用した飼料用米10俵穫りの実証試験を実施し、肥料費が慣行の半分で10俵穫りができることを示した。今後、農業普及課では、この協定に基づいて取り組む新たな生産者に対しても支援を進める予定である。  
(地域支援第三係・吉田一昭)



【市長立会の調印式】

## 活力ある新産地づくり

### ■秋冬ブロッコリー ブロッコリー塾を開催

J A ぎふブロッコリー生産連絡協議会では、毎年、仲間づくりを目的に、ブロッコリー塾を開催している。

2月3日は、4回シリーズの最終回として、塾生には収穫と出荷調整を体験してもらった。

農業普及課からは、ブロッコリー栽培の中で最も作業時間の多い収穫及び出荷調整作業の効率を上げることと選別の徹底の重要性を説明した。平成28年度は、塾生のうち2名が共販出荷に参加する予定である。  
(地域支援第一係・稲葉千佳)



【収穫方法の説明】

## 売れる農畜産物づくり

### ■水稻 J A ぎふ各務原ライスセンター運営対策会議を開催

2月3日、ここ数年、荷受能力を超過しているJ A ぎふ各務原ライスセンターの運営について、解決策を検討した。

各務原市から、農業用水の利用開始時期は、各地区の農事改良組合に一任しており、話し合いのうえ決めて欲しいとの説明があった。また、田植え時期の前進化による荷受分散については結論が出なかった。

農業普及課から、過去の出穂データと適期収穫時期、育苗から田植えまでのスケジュール管理を生産者へ周知し、ライスセンターの荷受時期の分散、近隣の既存農業施設の高度利用体制を7月上旬までに樹立し、ピーク時の応援体制の計画作成を提案しました。  
(地域支援第二係・森 俊彦)



【運営対策会議】

### ■小麦 ほ場巡回調査を実施

2月15日、農業普及課作物部会では、小麦作付ほ場の現地巡回調査を行い、全般の生育状況を確認するとともに、品質向上・省力化を目的とした肥料試験ほ場の生育状況についても確認した。また、コムギ縮萎縮病軽減対策について、昨年から連携している農業技術センター生物機能研究部とともに、対策試験予定ほ場を確認した。

農業普及課は、この結果を基に、管内小麦の追肥時期など今後の管理について指導資料を作成し、J A、生産者に情報提供を行った。

今後、巡回指導や実証試験を行い、小麦の高品質生産、単収向上を支援する予定である。  
(地域支援第三係・岡田隆史)



【ほ場巡回調査】

## ■いちご 糸貫苺技術部会勉強会を開催

2月15日、糸貫苺技術部会15名を対象に勉強会を開催し、農業普及課から、アザミウマ類及びコナジラミ類を対象とした農薬の試験結果や今後の栽培管理について指導を行った。

また、農業技術センターからは、育苗期におけるバンカーシートのハダニ防除効果について、農薬メーカーからは、定植前の農薬のかん注の効果などについての説明があった。出席した生産者からは、今後、バンカーシートの活用や農薬のかん注などに、積極的に取り組んでいきたいとの意見が出された。

今後、農業普及課では、実証ほを設置するなど、これら技術の確立に向けた取り組みを支援していく予定である。(園芸産地支援第一係・渡辺新一)



【勉強会の様子】

## ■えだまめ 新技術導入に向けた栽培研修会を開催

2月2日、10日の2日間にわたり、JAぎふえだまめ部会会員を対象とした栽培研修会が開催された。

農業普及課からは、農薬の適正使用、出荷の平準化、GAP点検項目の徹底、夏期高温時の発芽対策などの指導を行った。各会場とも、生産者は真剣に聞き入っており、特に夏期高温時の発芽対策については、生産者から多くの質問が出され、関心の高さが伺えた。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【栽培研修会の様子】

## 戦略的な流通・販売

### ■アスパラガス JAぎふ羽島市アスパラガス部会が自動選別機を導入

2月2日、JAぎふ羽島市アスパラガス部会に、アスパラガスの自動選別機が導入された。

アスパラガスの収穫、出荷、調整作業は忙しく、時間と労力がかかることから、農業普及課では、出荷、調整作業を共同で効率良く行うことによって、作業時間の短縮をし、規模拡大に繋げてもらうため、自動選別機の導入の推進を図ってきた。

自動選別機は、まずカッターで25cmに切り落とし、高精度の秤でアスパラガスを1本ずつ重量選別する。従来の手選別に比べ、大幅に作業時間が短縮できるとともに、作業員2～3名で1時間当たり最大で約8,000本が処理でき、省力化に大きく貢献ことが期待される。

(園芸産地支援第一係・藤田文彦)



【導入した自動選別機】

## 魅力ある農村づくり

### ■かき かき農家の獣害対策を支援

2月24日、円蔵洞のかき生産者に対して、侵入防止柵設置に向けた進捗状況を報告するとともに、12月9日に実施したニホンジカ捕獲実地研修の結果について説明した。

円蔵洞の侵入防止柵設置については、岐阜市鳥獣被害対策協議会から岐阜農林事務所に、平成28年度鳥獣被害防止総合対策交付金活用による設置要望が出されたところであり、今後も農業普及課は、侵入防止柵設置に向けた支援を継続して行うとともに、狩猟免許の取得及び捕獲の推進も図ることとしている。

(園芸産地支援第二係・青山 哲)



【座談会の様子】